

市町村指定文化財取材票 《表》

取材日	2024年	4月	24日	(記入者) 神野一美	
取材参加者	秋山	大谷	河添	神野	鈴木
	仲	灰藤	東辻	本井	
取材対象先	大淀町：大日堂の木造大日如来坐像				

所在地	吉野郡大淀町大岩				
所有者(取材 対応者)名	大岩区(大岩自治会長、大淀町学芸員 松田 度氏)(個人情報守秘)		連絡先：0747-54-2110		
	PCアドレス				
取材申込	申込先・行政名など：大淀町教育委員会 松田学芸員				
市町村 指定文化財	彫刻 1 軀	木造大日如来坐像 2003(平成15)年2月10日指定			
	建造物 棟				
文化財指定理由	江戸時代に補修を受けているものの、平安時代に遡る金剛界の大日如来として、吉野地域でも数少ない作例である。				

文化財の状況

	設備・対策・点検・通知方法など	記入者の感想
防火対策	堂内には特に防災対策関係のものはないが、消防署の指導で、縁板に消火器が設置されている。	特になし。
	被害の有無、対策など	記入者の感想
獣害対策	隣地のゴルフ場ができるまでは、鹿やイノシシが周辺を走り回るのが見かけられたが、ゴルフ場のフェンスのおかげでその姿も今は見ない。また、地元猟友会でも対策をしている	堂内にも入ってこないとのことであり、特に問題なし。
保存～継承 へ 苦勞と 今後の課題 と対策	大岩大日堂は、大岩区の有志22軒のうち、毎月2～3軒がお堂や周辺の草刈りなどの整備を行っている。毎月28日は真言宗の大事な日(お不動さん=大日如来の日)のため、その日を目途に、お堂の掃除や花の入れ替えをしている。住民の高齢化で大変ではあるが、お参りに来てくださる方がいるのでそれが励みになって、今後も続けていこうと思える。当面はこの状態で維持管理はできそうだが、次世代になったときに、どのように捉えてくれるかは心配が残る。	

取材を終えて感じた文化財保護状況と今後の課題(修復、維持、管理、環境など)

大淀町の北西端に位置する大岩区は山間部にあり、里山の風景が色濃く残っている。その雰囲気に魅力を感じて都市部から移住する人も増えているという。確かに高齢化による人口減少が懸念されるところではあるが、他地域からの移住という形で人口減少が多少ではあるが抑えられていることに安堵を覚える。その人たちが地元とうまく溶け込んで、文化財を守っていく力になって欲しいと願うのみである。

市町村指定取材票《裏》

取材日	2024年	4月	24日	(記入者) 神野一美	
取材参加者	秋山	大谷	河添	神野	鈴木
	仲	灰藤	東辻	本井	
取材対象先	大淀町：大日堂の木造大日如来坐像				

＜写真撮影許可済み＞

文化財指定名 木造大日如来坐像

文化財（正面写真）	文化財（角度を変えて、写真）
-----------	----------------



創建（元禄時代）当時のもの

安楽寺扁額/アメタンモレの泥



← 唐破風造りの



← 安楽寺の扁

屋根葺替え時に
降ろされた瓦



数年前に採取



文化財の由緒などを記入

所有社寺や地域（廃寺等）の歴史や特徴を記入

大日堂の本尊で、像高158.8cm。材質はクスノキ、素木のままの仕上げ。光背、台座は後補であるが、その特徴から、平安時代後期の作と考えられる。（大淀町HPより抜粋）この大日如来には逸話があり、高取町丹生谷山中の水場で大日如来が胡坐をかいていたのを、大岩まで連れてきてお祀りした。日照りが続いた日に、元の丹生谷山中まで泥を取りに行き、持って帰った泥を大日堂の屋根に「アメタンモレ」と言いながら投げ上げる。そうすると雨が降ったという。この行事は60年ほど前までは続けられていたそうである。

扁額にある[安楽寺]は、高取町丹生谷にあったと伝わる元真言宗の寺院で、1680年代以前に現大日堂の北側に移された。1876(明治9)年に安楽寺本尊の大日如来が大日堂に移され、1897(明治30)年に安楽寺本堂は解体、扁額も大日堂に移された。大日堂は屋根の傷みが激しく、雨漏りでご本尊に影響が懸念されることから、2012(平成24)年に改修工事を行った。建物は手付かずの状態、いつまでもつだろうかと憂慮されている。建物は元禄時代創建